GINZA VISION 2040

Ginza: My Quality Place

銀座ヴィジョン2040　　ギンザ：マイクオリティプレイス

目次

01　ギンザ：マイ クオリティ プレイス
02　はじめに
04　Mission 銀座の心構え
06　Vision 銀座が目指す姿
08　Value 銀座が大切にする価値観
12　具体的な方策などへの期待
15　おわりに

銀座は私たちの共有資産

人それぞれに
私の銀座がある

接客、品揃え、人の佇まい
気品、気軽さ、気持ちよさ
空気、風、街路樹
地下鉄の階段、路地、街並み
カフェのテーブルと椅子
etc.

どんな銀座も
私のお気に入りで
さらにいうと
それが
私だけの銀座を
形作っている

いつも安心できて
信頼できるクオリティがある

それは
品物やサービス
だけでなく

街全体からも
感じられる

特別だけど
いつでもそこにあって
気軽に行ける街

それが
ギンザ：マイ クオリティ プレイス

はじめに

G2020プロジェクトを下敷きとして

全銀座会では、将来に向けて銀座がオリジナリティのある魅力的な街であり続けるため、銀座というブランドロイヤリティの確立と強化を目指し、オリンピック・パラリンピック2020東京大会の開催が決定した翌年の2014年から「G2020」というプロジェクトに取り組みました。プロジェクトの報告冊子「未来の銀座へ」では、今後の銀座には皆が目指せる言葉＝ヴィジョンが必要だと総括しました。

報告冊子「未来の銀座へ」

なぜ、ヴィジョンが必要なのか

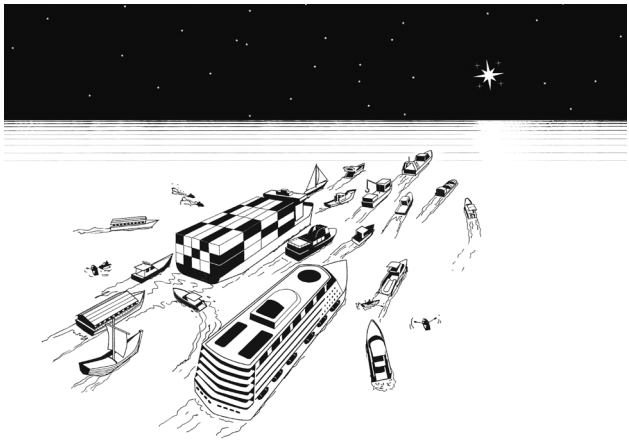
15年後の2040年を見据えて、銀座のあるべき姿を描いた「銀座ヴィジョン2040」を策定しました。ヴィジョンで描かれている姿は、銀座に関わる皆さんが、同じ方向を向いて前に進むためのものです。

銀座は小さな個店から大きなデパートやホテル、さらに多様な事務所、住宅などで構成されています。大手ディベロッパーが手がけるようなショッピングモールとは一線を画す「商店街」です。銀座は大きな力を持つひとり、あるいは1つの大きな会社の思惑で動くのではなく、街の人同士の話し合いを通じて未来を考え、つくられてきましたし、それはこれからも変わりません。

言うまでもなく、自社や自分自身の将来のあり方を考えるときには、言葉やイメージが必要です。銀座ヴィジョンは、そういう思考の一助となるように、街の方向性を示した言葉とイメージです。

例えば、銀座に土地を持っている人なら「こういう建物を建てよう」、その建物を建てるディベロッパーなら「こういうテナントを集めよう」、そこを運営する人なら「こうやって運営しよう」、店を営む人なら「こういう商売の仕方をしよう」と、物事を決めるときに「道しるべ」となる考え方をまとめました。

銀座は、大海原を進む大きな一隻の船ではなく、形も大きさも多様な何百艘もの船による船団です。成り立ちや規模は様々でも、共通の方向に向かってそれぞれの方法で進んでいく、そんな姿を思い浮かべています。銀座ヴィジョン2040は、その船団が道しるべとする星のような存在です。



このヴィジョンを「銀座は全体ではこういう方向を目指しているよ」という、自らの方向を考えるときの「道しるべ」にしてもらい、街の未来を共につくってほしいと考えています。

銀座憲章と銀座ヴィジョン2040

銀座憲章は1984年に銀座通連合会によって定められた、銀座を定義した言葉です。

銀座憲章

銀座は創造性ひかる伝統の街
銀座は品位と感性たかい文化の街
銀座は国際性あふれる楽しい街

銀座ヴィジョン2040は、これらの言葉をふまえながら、さらに具体的で想像のできる未来を指向します。銀座憲章が自らを規定する言葉であるのに対し、銀座ヴィジョン2040は、少し遠くにおいてそこを目指していくような言葉たちです。

MISSION

銀座の心構え

来街者の心の潤いのために、
銀座は、すべてを磨き続ける

未来を見据える時に、
銀座は「ヒューマンスケール」の街という
価値観を大前提とします。

あらゆる思考は「人」から始まります。

銀座らしさは街の人たちの矜持と来街者の期待や信頼が掛け合わされてつくられてきました。

今後もそれは変わりません。すべては銀座を愛してくれる人たちの心の潤いのために、街のあらゆる企画や計画は、この街を訪れる人たちを念頭において考えられ、そのクオリティを磨き続けるのが、銀座だと考えています。

VISION

銀座が目指す姿

銀座はヒューマンスケールの街として、
街全体を歩行者天国に変えていく

日本の文化は「通り」で育まれました。
銀座はもともと人の歩く速度で設計された街です。

私たちは近い将来、
街全体で毎日歩行者天国を展開することで、
再び人が主役の街として
銀座を生まれ変わらせます。

現在、銀座で課題となっている駐車場の附置義務や歩行者天国での活動制限などは、銀座ならではのルールを作りあげ、街が生き生きとするようにひとつひとつ丁寧に取り組んでいきます。

街では、通りを活用した多様な賑わいを演出します。さらに、人の歩行を妨げることなく、次世代モビリティツールなどがスムーズな移動を助けます。納品車などの事業に必要な車両は時間を決めて活動してもらいます。また、通りの利活用で得た収益などを、街づくりに役立てるなど継続性や資金の循環も意識します。

そして、人が中心の街として、銀座を生まれ変わらせ、銀座の価値をさらに高めていきます。

VALUE

銀座が大切にする価値観

01 独自のセンスを磨く

02 通りから文化が生まれる

03 世界のスタンダードをリードする

01 独自のセンスを磨く

常に独自のセンスを育み、
奇抜さとは別の新しさを求め続けます。

そのセンスを基盤に銀座ならではの
コンテンツが生まれていくことを目指します。
それが新しい銀座の価値へと磨かれていきます。

銀座では、街区、道幅、建物、店構え、看板、広告、ショーウィンドウ、店内空間、商品、接客、販売スタイルなど、すべてが人を中心に考えられています。人が心地よく過ごせ、刺激を受けたり学びを得られたりする、そんな街の空間を支える骨組みをベースに、センスの良い新しさが銀座の街のなかで生み出されていきます。

これまでのように世界中から選りすぐりのモノ・コトが集まるだけでは街の競争力はなくなっていくでしょう。これからは、世界や日本の選りすぐりのセレクションと併せて、銀座で作られたオリジナルのモノやサービスが充実していて、街の中で常にその価値を磨き合っている状態を目指します。

そして、これまで通り、街のコミュニティを大事にしながらも、決して排他的にならず、新しいチャレンジを受け入れる土壌も大切にしていきたいと考えています。

02 通りから文化が生まれる

銀座では、銀ぶらや歩行者天国など、
通りから文化が生まれてきました。

通りを街の広場空間と捉え、
街で過ごすこと自体が文化だと感じられる、
オアシスのような場を目指します。

何かをするために訪れる街は、その「何か」がなくなると寂れていくでしょう。銀座では感性が刺激され、新たなライフスタイルや価値観への気づきが得られるモノやサービスが満ちていることを目指します。銀座を訪れること自体が価値となるような街としてのあり方を探り続けます。

銀座はくつろぎの場であり、真剣な語り合いの場でもあり、また、来客をもてなす場でもあります。街をぶらぶらしたり、ギャラリーを覗いたり、お茶を飲んだり、友人や家族と語り合う尊い時間を過ごせる場所。通りには、街で活動している人たちの想いがあふれ出していて、人の温度が感じられる対面のコミュニケーションがある。ここが「マイ クオリティプレイス」だと感じられるような要素が新陳代謝しながら、大事なことが未来へと引き継がれていくことを願います。

ネットショッピングやロボット、AIの普及以降、街に行くことの意味は変わってきました。銀座は、DXにも適切に取り組みつつ、アナログな魅力にあふれた人間の街の未来を探り、人と人が共にする時間を大切にしていきます。

03 世界のスタンダードをリードする

世界のどこから訪れる人にとっても、
心地よく安心して過ごせ、買い物を楽しめる。

そんな銀座のあり方が、
日本だけでなく
世界の街のスタンダードをリードします。

ヒューマンスケールのインフラが整備され、ホスピタリティ豊かなこの街は、人が心地よく過ごせ、セキュリティ面でも商品の品質でもゆるぎない信頼を築いてきました。それは、街の人たちのプライドとも通じていて、買う人も売る人も互いに信頼し合った関係性が築かれています。

バリアフリーや多言語化などハードの整備はもちろん、整備が追いついていない場所でも誰かが助けてくれる街。そのような人同士の関係性は災害時にも力を発揮します。これらの機能を補助するであろう、未来のテクノロジーの利活用についても積極的に取り入れていきます。

これらを支えるコミュニケーションのための様々な仕組みがあります。人同士の繋がりを基礎とした居心地の良さは、住みやすさにも繋がり、再び銀座に人が住まう未来も開けています。地球環境はもちろんのこと、街が継続していくという真のサスティナビリティが実現されている街。銀座のあり方が世界の価値観のスタンダードをリードしていきます。

具体的な方策などへの期待

銀座ヴィジョン2040で提示しているのは、銀座はこれまでもこれからもヒューマンスケールを意識することや、人が人から受けられるサービスを大事にしていくというメッセージです。

そして、銀座は唯一無二の「マイ クオリティ プレイス」であり、他にない「サービス、商品」が得られる街です。だからこそ、それらを阻害する付加価値を生み出さないチェーン店や販売店、街に根ざす気がなく短期的な利益のみを追求する事業者、環境の美化を損ねる売り込みだけの広告看板などのない街を目指します。

銀座の交通については、2015年に「銀座モビリティ・デザイン案」※ が作成されています。それを基盤として、人の移動や物流は、特定の交通手段(自転車、電動スクーター、自動車など)が支配的になることなく、それぞれの使われ方や道路での優先順位等を決めていくことが求められます。これから普及が期待される自動運転などの新しい技術は、銀座での人の移動や物流のしやすさを向上させていくために活用されることを目指します。

銀座モビリティ・デザイン案

環境(街全体、店舗内外)、サービス、飲食、商品の全てが最高品質で、かつ独自性が強いこと。環境負荷の低いエネルギー活用に街として取り組むこと。ほかにも、例えば、ゴミ処理や水の再生、屋上緑化、ソーラーパネルの設置など、銀座の街なかで資源が再生・循環できるよう、それらひとつひとつの課題について具体的なアクションが始まっていくことを期待します。

また、自然災害、人的災害（テロ、窃盗、詐欺）などから街と人を守る仕組みや設備を整え、有事でも、どこから来た人へも情報が伝達できるように訓練を重ねることも必要です。

そのほか、高すぎる地価や税金の問題など、街の存続を損なう多様な課題に対して、銀座が街としての求心力をさらに高め、行政に働きかけていく必要性も感じています。また、未来の街を担う人材育成に取り組むと共に、これらの課題を組織的に解決していくため、例えば、コミュニティ財団、街づくり会社、BID（Business Improvement District）運営組織など、多様な仕組みの研究を重ね、未来の街づくりを考え続けます。

おわりに

2025年現在、銀座の周りの街では大きな開発が進んでいます。銀座の縁取りのような東京高速道路が歩道へとその姿を変え、日比谷も帝国ホテル近辺が大きく再開発され、京橋や八重洲も高層ビルの街へと変貌を遂げようとしています。さらに、築地でも市場跡地にスタジアムや超高層ビルができ、新たな地下鉄の計画もあります。このような開発と銀座は無関係でいるわけにはいきません。ただ、銀座はずっとヒューマンスケールで物事を考えてきました。これからも先人たちが決断した建物の高さ制限や江戸から続く町割りを基盤にした街づくりを続けていきます。

冒頭でも触れましたが、銀座は「商店街」です。でも、銀座は「商店街」を越えた存在でもあります。ギンザ：マイ クオリティ プレイスという言葉には、商店街でありながらその先を考えるギンザの想いが込められています。一人ひとりがその魅力を感じつくっていける場所、豊かな体験に満ちた創造的な場所であってほしい。街の空気を肌で感じ、品物やサービスと出合い、食事やお茶、そして銀ぶらを楽しめる。一人でも友人同士でも、家族でも恋人同士でも。そんな豊かな体験ができる街として「商店街」をマイ クオリティ プレイスとして捉え直していく第一歩を記したいと思っています。また、これまで「商い」を中心に考えられてきたことも、「買い物すること」や「街にいること」という視点から、つまり来街者を中心に考えていることもこのヴィジョンの特徴です。会社の経営者や一部の人が先導する時代から、街に携わる一人ひとりがつくっていく社会へ。この銀座ヴィジョン2040には、そんな想いも込められています。

最後に、このヴィジョンは今後15年ほどを射程に、将来の社会でも銀座が輝いている姿を思い描きました。銀座は、その次の未来をも見据え、今後も新しいヴィジョンを絶えず考え続けていきます。

銀座ヴィジョン2040

発行日　2025年5月15日

発行者　全銀座会 銀座ヴィジョン会議
（東京都中央区銀座4丁目6-1銀座三和ビル3F）

企画制作　全銀座会 銀座ヴィジョン会議
伊藤明・東條幹雄・永井真未
竹沢えり子・黒田麻実子（銀座街づくり会議）・森隆一郎（渚と）

イラスト　伊藤明

執筆　森隆一郎（渚と）

デザイン　蔭山大輔

印刷　誠晃印刷

※無断転載禁止

Printed in Japan @2025

全銀座会 銀座ヴィジョン会議